

Café Rits; ポートフォリオを構築するための模擬喫茶店舗

— 特別支援学校と大学との情報移行を通じてのポートフォリオの作成 —

Café Rits; Simulation shop for constructing portfolio of high school student with disability

○尾西洋平*・井上 葉*・小島 遼*・中鹿直樹*・望月 昭*・土田菜穂**・友田英華**

ONISHI Y*, INOUE S*, KOJIMA R*, NAKASHIKA N*, MOCHIZUKI A*, TSUCHIDA N**, TOMODA E**

立命館大学*・京都市立北総合支援学校**

(Ritsumeikan University)

Key words: Portfolio, Student Job Coach, Information transfer, Simulation shop

目的

障害のある特定の個人が、その時々キャリアの段階で、常にベストパフォーマンス（「できる」山本・池田, 2007 参照）を示すためには、単にスキル獲得の訓練（「教授作業」）だけでなく、どのような「援助設定」が有効であったか、対象者が「何」があれば「できる」のかということを確認、記述し、その内容の「情報移行」を行うことが必要になる。

本研究は、支援学校高等部の生徒を対象に、地域資源のひとつとして大学の模擬喫茶店舗（Café Rits; 尾西ら, 2012 など）での実習前後における「情報移行」（学校→大学→学校）の作業を通じて、これに必要な具体的な作業やシステムについて検討することを目的とした。

方法と結果

対象生徒 特別支援学校高等部1年に在籍する軽度の片側麻痺と知的障害をもつ男子生徒であった。

1. 「模擬喫茶店舗での実習」開始までのやりとり

方法 学生ジョブコーチ（SJC）が現在の対象生徒の情報の聞き取りや、対象生徒の学内での現在の作業（ワーク・スタディ）の観察を行い、結果を整理した。その後、さらなる「できる」を確認するための方法を考案し、学校や保護者と情報共有を行い、実習内容を決定した。

結果 以下、「スケジュール管理スキルの確認」について具体例を示す。対象生徒は日常的にメモ帳を用いており、「ある程度、決められたスケジュールに従って行動することができる」、「指示されたことをメモ帳に書くことができる」ことがわかった。そのため、「メモを活用して自らが記述し、変更されたスケジュールに従って行動できるか」などが確認したいこととして挙げられた。

2. 実習開始

期間 2週間にわけて合計6日間実施した。

方法 スケジュール管理スキルの確認のために、口頭

で伝えられた1日のスケジュールを手帳に書き、それを確認することや、客から指定された時間とおりに（しかし、前の予定の前に別の予定が追加される）、注文品の配達・回収を行うデリバリー業務を行った。

結果 「他者からの促しがあればメモを見て次の行動を確認することができる」、「時間が明確であれば時計を見て次の行動に移ることができる」ことが確認された。

3. 実習終了後

方法 明確になった対象生徒の「できる」ことを報告書や報告会で伝え、学校の教員や保護者と対象生徒の情報共有を行い、次の援助設定に関しての協議を行った。

結果 学校では実習の結果をうけて、ワーク・スタディの時間に、対象生徒自らの休憩時間の管理を行う具体的な課題が新たに設定され、SJCも後には他の生徒の時間管理を行う「タイム・キーパー」の役割もできるようになる可能性があることを伝えた。

考察

“実習開始前の「できる」こと”から、模擬喫茶店舗での実習を通して、より詳細な対象生徒の「できる」ことが確認された（図1）。また、それをもとに学校と情報共有を行い、学内での対象生徒の次の課題設定に生かされた。このように、対象生徒のキャリア・アップのための情報（ポートフォリオ; 中鹿他, 本大会発表）を、構造化場面を通してより詳細に確認し、それを学校と大学との情報を共有することが、継続的支援のために重要である。

引用

中鹿直樹他（本大会発表）

尾西洋平他（2012）. 累積記録を用いたスケジュールの自己管理行動の表現. 対人援助学会第4回年次大会発表論文集, 18.

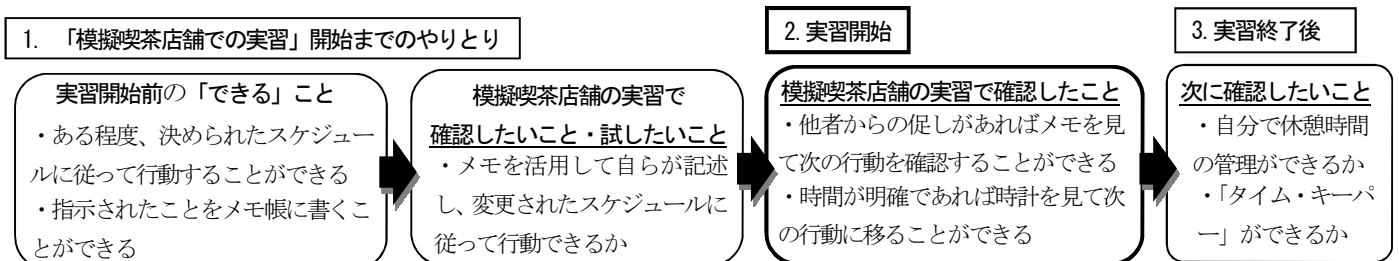


図1 対象生徒の「できる」の記述の変遷